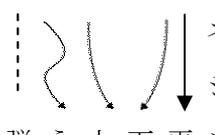
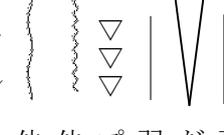


言語活動の充実を図る国語科指導の実際③

— 群読を取り入れた授業の工夫 —

- 小学校では「読むこと」において音読や朗読を繰り返し指導している。中学校ではこれを踏まえて、相手に分かるように正確に音読したり、作品の形態や特徴を生かしながら朗読したりすることを通して、文章の理解を一層深める活動を行うことが大切である。
- 音読・朗読・群読の役割を理解し、学習のねらいに応じて取り入れていきたい。
 - 「音読」・・・文章に書かれていることを理解して音声化する。書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化する。
 - 「朗読」・・・読者として自分が思ったことや考えたことから対象としている文章の全体的なイメージを明確にし、そのことを相手に分かってもらうように伝えようとして音声化する。
 - 「群読」・・・複数の読み手による「朗読」

【朗読譜の例】『声を届ける 音読・朗読・群読の授業』（高橋俊三 三省堂 2008）から

4	3	2	1	
イントネーション	緩急	強弱	間	
				
弾むように読む うねるように読む 上げて読む 下げて読む 平らに読む	他の部分に比べて特に速く読む 他の部分に比べて特にゆっくり読む プロミネンス 弱く読む だんだん弱く読む 強く読む だんだん強く読む	場面や論理の大きな展開を表現するための長い間 段落と段落の間でも気をつけて取る間 段落的な展開を表現するための長い間 だんだん強く読む 強く読む だんだん弱く読む 弱く読む	句読点のないところの間を取る。 読点のところの間 句点のところの間 読点のないところの間 読点のあるところの間	朗読譜（朗読台本）の記号に きまりはないので、各学校で、 使いやすい記号を決めるとよ い。発達の段階に応じて、学校 で統一していくと学年や学級 が変わっても対応できる。

群読譜（群読台本）を作る場合、左の記号に加えて、「読み担い」（だれが読むか）が分かるようにするとよい。

例
 （全員）（二人）（女全）
 （男全）（語り手）など

【参考例】

- 1 単元名 作者の思いを読み取り、群読で表そう（第3学年）
- 2 教材名 ヒロシマ神話
- 3 単元の計画
 - (1) 単元の日標
 - ア 状況を自分なりに想像し、表現に寄り添いながら詩を読んでいる。

イ 詩に一貫して流れている作者の思いを、表現に即してまとめ、群読で表現することができる。

ウ 詩に込められた作者の思いを自分たちの日常生活と重ね合わせて、生きることや平和の意味を考えている。

エ 簡潔な語句や表現に込められた作者の深い思いを感じ取っている。

(2) 指導計画

	学習活動	指導上の留意点
1	○ 各グループで作品を読み、どのように読むかを話し合う。	・ 群読が最終目的だが、作品の読み取りが基本であることを十分に理解させる。
2	○ なぜそのように読んだかを発表し合い、読みを深める。 ○ 詩の表現技法等についてまとめる。	・ 根拠と理由を明確にして発表させる。
3	○ 前時の学習を生かして、再度、読み方を工夫し、発表し合う。	・ 読みの深まりを確認するために、前回からどのようなところを工夫したか発表させる。

5 本時（1／3）

(1) 本時の目標

- ・ 作者の思いを読み取り、グループで群読譜を作ることができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 これまでの群読の学習を想起する。 2 作品の背景について考える。 3 学習のめあてを立てる。 作者の思いを読み取り、群読譜をつくり、発表の練習をしよう。 4 学習方法を確認する。	5	・ 作品の背景にある原爆について、お互いに知っていることなどを話し合わせる。 ・ これまでの行ってきた群読の学習を振り返り、群読の進め方を確認させる。 ・ 群読譜の作り方を確認する。
展開	5 グループで詩を読み、語句や表現の工夫などか、どのように読んでいけばよいか話し合う。 6 群読譜を作る。 (1) 読み分ち（どこを分担して読むか） (2) 読み担い（だれが読むか） * 一人、複数、男女別など (3) 強弱、間、緩急、プロネンスなど	30	・ グループでの話し合いの前に、それぞれがどのような読みをするかという考えをもたせてから話し合いをさせる。 ・ 読み取りの結果が生きるように、群読の工夫の効果について確認する。
終末	7 グループで話し合ったことを基に、群読を練習する。 8 学習のまとめ ・ 自分たちがなぜそのような読み方をしたのかを説明できるようにまとめる。	15	・ できるだけ読む声が混ざらないように、練習の場を工夫する。 ・ 根拠や理由が明確に説明できるように、発表の仕方について確認する。